

現場の声から課題を見出し政策形成！

福岡県議会議員

田辺かずき 県政報告

福岡発！ただいま
政治刷新中！

第36号

2016年8月発行

<田辺かずき事務所>
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール : challenge@
tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります！】
■子育てと教育を改善

連続の議会質問、地域防災力を向上

福岡県総合計画を見直しへ

私たちの暮らしには、さまざまな生活課題があります。経済の好循環を取り戻すための景気回復と雇用改善、「二極化」が進行する貧困・格差への対策、夫婦がともに働きながら子育てをしていける環境づくり、子どもの学力・体力の向上、高齢社会に対応した地域医療体制の整備や介護

予防・健康づくりの推進、障がいがある人もない人も支え合いながら生きていける社会づくり、道路などの交通インフラ構築や河川整備。こうした課題を一つ一つ丁寧に把握するため、日々、全力で地域を回り、住民の皆さんとの「対話」を実践しています。

そして、対話から見出した課題を解決するため、福岡県議会の本会議や委員会の場で、小川洋知事らに提案し、政策形成を進めてきました。

6月定例会では2011年の就任以来、連続21回目となる本会議質問に立ち、小川洋知事と県政課題を議論し

全力で地域を回り、皆さんの「声」をお聞きしています
=2016年7月、古賀市のハマボウまつりで

ました。今回は「防災力の向上」をテーマに質問。その中でも、災害時に自力避難が困難な高齢者や障がい者ら「避難行動要支援者」の個別避難支援計画について、福岡県内60市町村のうち、全ての要支援者の計画策定を終わっているのが4市町に止まることが初めて明らかになりました。今年4月1日現在、県内の要支援者は18万3000人で、このうち個別計画が策定されている人数は3万3000人（18％）に止まっています。今回、私から市町村ごとの状況を明らかにするよう求めたことで、要支援者のうち個別計画を策定している人の割合について、30％未満が4市町村（うち0％が6市町）と全体の3分の

2に上り、100％は4市町に止まっている実態が示されたものです。私は、県民の生命・身体を安全を確保する観点からこの状況に極めて強い危機感を覚え、早急に改善するよう求めました。具体的には、県の最上位計画である総合計画の目標設定では、個別計画の策定状況の実態を正確に把握できないため、私から来年度（2017年度）からの次期計画では目標設定を見直すように要請。知事はこれに応じました。

引き続き、私たちの暮らしの向上を図るため、皆さんの「声」を政治の場に届けていきます。



県議会本会議で、県政課題について小川知事と議論=2016年6月

田辺の政治活動を連日発信しています！

田辺かずき で 検索

ブログ（政治活動日記） <http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

公式ホームページ <http://www.tanabe-kazuki.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>

Twitter アカウント→ @tanabe_kazuki

裏面につづきます

次世代を重視 — 子育て支援、教育環境の充実を推進



県の「総合計画」の来年度からの内容を審議する場で積極的に発言

チルドレン・フアースト——。私たちの社会は、先行世代が責任を持って、子どもたちや孫たちといった次の世代により良好な生活環境をつないでいかなければなりません。私が所属する民進党・県政クラブ県議団は、6月定例会でもこの観点から知事や教育長に課題を提起し、取り組みの改善につなげました。

【待機児童への対応】
福岡県内の放課後児童クラブで待機児童が生じ、県内22市町で計449人の上っていることが分かりました。これまで古賀市など一部の自治体で判明していましたが、県内全体が判明するのは初めて。調査結果によると、今年5月1日現在、小学

校で1年生73人▽2年生52人▽3年生110人▽4年生150人▽5年生50人▽6年生14人。私たちの問題提起を受け、小川知事は「市町村にクラブ整備の前倒しや小学校の余裕教室を活用したクラブの設置などを助言し、整備に必要な助成を行い、待機児童解消に向けて取り組み」と述べました。

また、「第一希望の保育園に入れぬ」「育児休業中」などの待機児童の定義とは異なる理由によって保育所を利用していない「隠れ待機児童」について、福岡県は約2500人に上ることも明らかになりました。

【国に基準見直しを要請へ】
知事は「都道府県別の公共工事労働単価や保育待機児童問題を調査する過程で、国から地方に対する保育施設整備のための交付金の支給基準で福岡県が最下位の「Dランク」に位置付けられていることが判明。知事に對し、「不当と言わざるを得ず、県内の保育事業者が多大な不利益を受けてきたこと、福岡県における保育所整備に多大な影響を与えてきたことは到底納得できない」と指摘し、交付額の是正を国に要請するよう求めました。知事はこれに応じ、「合理的な根拠に基づく交付基準となるよう、見直しを強く国に要請していき」との考えを明らかにしました。

【正規教員の採用増へ】
福岡県内の一部の公立小・中学校が教員定数に満たない状態に置かれていることが分かりました。私たちは、正規雇用の教員で定数を満たせず、非正規の講師による補充も間に合っていない実態も明らかにし、城戸秀明教育長は県教委として今後、正規教員の増加を図る方針も示しました。

【正規教員の採用増へ】
福岡県内の一部の公立小・中学校が教員定数に満たない状態に置かれていることが分かりました。私たちは、正規雇用の教員で定数を満たせず、非正規の講師による補充も間に合っていない実態も明らかにし、城戸秀明教育長は県教委として今後、正規教員の増加を図る方針も示しました。

【対話集会を開催】
私の政治活動は県民の皆さんの「声」があつてこそ。各地の公民館で対話集会を継続的に開催しており、ご連絡をいただければサークル活動などの地域の皆さんの集まりにも足を運び、活動報告と意見交換をさせていただきます。事務所(092-692-8510)まで。

【県政報告書の発送】
ブログやフェイスブックなどによる連日の情報発信に加え、紙ベースの報告書(1~2か月に1回のペースで発行)で活動をお伝えしており、ご希望の方には郵送させていただきます。政治活動の意義と詳細をさせていただきますので、事務所(092-692-8510)までご連絡ください。

地域で子どもを育てる ~子ども会育成会の活性化を~

地域で子どもを育てる——。私たちが「未来への責任」を果たしていくうえで、その前提を把握することは重要です。今回、福岡県における子ども会育成会の現状をあらためて調査しました。



近年、現場の実感として「子ども会に加入する子どもが減った」「親が責任ある役をやりたくないの、子どもが高学年になると脱会させる」といった声を聞くようになりました。福岡県子ども会育成連合会(政令市を除く)に加入する児童・生徒の割合が年々、ハイペースで減少しています。小学生を見ると、2015年の加入数は5万8304人と、1993年の12万7793人の半分に減少。加入率は62.1%から39.1%となり、ついに4割を切りました。

子どもの主体性を重視し、育成会がサポートする基本的な理念、ひとつの小さな地域単位が独立して活動するだけでなく、校区単位、市町村単位の「横の連携」も図る広域的な体制、地域の公民館・分館活動と一体となった年間行事への参加などが「地域における子育て」の原点だと思います。私も思い出は尽きません。しめ縄づくりなどの世代を越えた伝承、廃品回収やお宮の掃除といった日々活動、夏休みのラジオ体操、ソフトボール大会などを通じた地域ぐるみの一体感の醸成……。

県議会では、既に私から教育長らに對しを求め、「(県教委として)活性化に向け、県子ども会育成連合会の研修等の企画に対する専門的助言、広報活動への支援、他県等の先進事例の情報提供等の充実を図り、活力ある子ども会育成会の運営ができるよう支援をしていく」との答弁も得ています。県議会の会派控室の机には子ども会のカップを置いています。引き続き、しっかりと取り組んでいきます。

<田辺かずきプロフィール>

- 1980年5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園 卒園
- 1993年 花鶴小学校 卒業
- 1996年 古賀中学校 卒業
- 1999年 福岡県立福岡高校 卒業 (高51回、現在は同窓会顧問)
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
- 毎日新聞社 入社、福井支局 配属
- 2006年 大阪本社社会部 配属
- 2011年 福岡県議会議員 初当選
- 厚生労働環境委員会 (~13年)
- 国際交流推進対策調査特別委員会 (~13年)
- 2013年 新社会推進商工委員会 (~15年)
- 防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会 (~15年)
- 2015年 福岡県議会議員 2期目当選
- 【所属】 福岡県議会・広域行政推進対策調査特別委員会副委員長 同、農林水産委員会、議会運営委員会 同、タイ友好議員連盟事務局長 民進党全国青年委員会事務局局長、民進党福岡県第4区総支部幹事長
- 【家族】 会員の妻、9歳の長男、6歳の長女 古賀東小学校PTA副会長



田辺かずき事務所からのお知らせ